

# その他病気やけがに対する応急手当

## 1 きずに対する応急手当

### (1) きず口の手当

○傷口が土砂などで汚れている場合は、速やかに水道水などきれいな流水で十分に洗います。

### (2) 包帯法

○包帯は、きずの保護と細菌の侵入を防ぐことを期待して使用します。

○きずを十分に覆うことのできる大きさのものを用います。

○出血しているときは、十分な止血を行ったあとで行います。

○傷口が開いている場合などは、可能であれば滅菌されたガーゼを使用します。

脱脂綿や不潔な布などを用いてはいけません。

### ポイント

- 強く巻くと血行障害の危険。
- 緩すぎると包帯がずれるため注意。
- 包帯の結び目は、きず口の上を避ける。

### (3) 三角巾

○体の様々な部分に使用できます。

○様々な大きさのきずに使用できます。

○きず口には、ガーゼ等を当ててから用いるようにします。

## 2 ねんざ・打ち身（打撲）に対する応急手当

○患部を冷却パックや氷水などで冷やすことで、内出血や腫れを軽くします。

○冷却パックを使用する際には、皮膚との間に薄い布などを挟んで、冷却パックが直接皮膚に触れないようにします。

# その他病気やけがに対する応急手当

## 3 首を痛めている場合の応急手当

自動車事故や高い場所からの墜落などによる頭から肩にかけての大きなけがなどでは首の骨を痛めている可能性があります！！

### (1) 首を動かさないようにします

○意識があれば、頭を動かさないように話します。

○次の症状が1つでもあれば、首の骨を痛めていると判断します。

- ・首が痛い
- ・手足に力が入らない
- ・手足がしびれる
- ・呼吸が苦しい

○意識がなければ、首の骨を痛めていると判断して、救急隊が到着するまでの間、次の対応をします。

- ・頭を両手で支え、首が動かないようにおさえます。
- ・頭や顔に傷があるか注意します。

### ポイント

- 傷病者のいる場所が安全であれば、頭が動かないように両手で支えて固定し、救急隊に引き継ぎます。
- 傷病者のいる場所が危険である場合など、やむを得ない状況では安静状態を保ちながら必要最低限の移動を行います。
- 首の骨を痛めている可能性がある場合には、すぐに119番通報してください。

## 4 歯の損傷に対する応急手当

○歯茎からの出血は、綿球などを用いて圧迫により止血します。

○大量に出血することは少ない。

### ポイント

- 抜けた歯は、可能であれば歯茎に戻し、すぐに歯科医師の診療を受ける。
- 歯茎に戻すのが難しい場合は、生の卵白や牛乳に入れて、すぐに歯科医師の診療を受ける。
- 歯の付け根を触れないようにする。





# 病気やけがに対する応急手当

## 9 溺水（水の事故）に対する応急手当

### （1）溺れている人の救助

- 海、川、湖などで溺れている人を見つけたときは、直ちに119番（海上では118番）に通報し救助を求めます。発見者が一人の場合には、大声で応援を呼んでAEDの手配をします。
- つかまって浮くことができるものがあれば、溺れている人に向けて投げ入れます。さらにロープがあれば投げ渡し、岸に引き寄せます。

#### ポイント

- 溺れている人の救助は、救助者が巻き込まれて溺れるケースが多いです。うかつに救助に行くことはせず、訓練を受けている消防職員やライフセーバーに任せるのが原則です。
- 溺れている人が水没したら、水没箇所がわかるように目標を決めておき救助者に伝えます。

### （2）入浴中の溺水

- 浴槽内のお湯に顔をつけた状態の人に見つけたときは、すぐに湯せんを抜きます。

### （3）心肺蘇生の実施

- 水の中から引き揚げた傷病者に反応がなく、「普段とおりの呼吸」をしていなければ心肺蘇生を実施します。
- 水を吐かせるために、傷病者の腹部を圧迫したりする必要はありません。

#### ポイント

- 心肺蘇生が必要な状態でも、安全な場所まで傷病者を移動させてから手当を行う。
- 嘔吐がある場合は、首を横に向けて布やタオルや指などで口の中から吐物をかき出す。